

## 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること

### (1) 授業計画書

#### 〔設定単位及び授業時間数の考え方〕

##### 「基礎科目」

基礎科目は、基礎的知識や概念の修得、入門として必要な原理の理解、学問体系の概論的学習であるため、基礎的知識等について整理するために予習ならびに復習の時間が必要であることから、授業時間外での学習時間を多くしている。予習・授業・復習のサイクルにより、学力の伸長と定着を図る。そのため授業形態が「講義」と「演習」である科目において、1科目1単位と設定、授業時間は15時間、その他30時間については、授業時間外での学習とする。「実験・実習」である科目において、1科目1単位と設定、授業時間は30時間、その他15時間については、授業時間外での学習とし、授業で行った内容の振り返りや準備の時間を確保して技術の向上を図る。

##### 「職業専門科目」

職業専門科目は、理学療法士ならびに作業療法士に係る業務において必要とされる理論的かつ実践的な知識を修得する内容であるため、より多くの講義時間を確保して、知識の定着を目指していく。そのため授業形態が「講義」「演習」、「実験・実習」である科目において、1科目1単位と設定、授業時間は30時間、その他15時間については、授業時間外での学習とする。「臨地実務実習」では、1単位45時間において40時間は臨床現場での体験実習、5時間は自宅等での臨床現場外での学習(実習日誌の作成等)とする。

##### 「展開科目」

展開科目は、理学療法士または作業療法士に係る分野に関連する他分野の応用的な知識、技術を身に付ける科目であり、さらに理学療法士または作業療法士の分野において創造的な役割を果たすために必要な知識、技術を学修していくものであるため、より多く学習時間の確保が必要と考える。そのため講義時間を多く確保して知識の定着を目指し、予習、復習の時間を確保して知識、技術の整理をする。また、グループワーク活動も授業時間外で取り入れ、創造的な役割を果たすために必要な知識、技術を学修していく。展開科目全ての科目において、1科目2単位と設定、授業時間は30時間、その他60時間については、授業時間外での学習とする。

##### 「総合科目」

総合科目は、修得した知識及び技能等を総合し、専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させるための授業科目であるため、演習を多く取り入れている。そのため、授業時間で理論や技術の方法を学習し、授業時間外でグループワーク活動や課題発表のためのプレゼンテーション練習等を行い多く取り入れる。総合科目においては、「理学療法研究法演習Ⅰ」、「作業療法研究法演習Ⅰ」以外の科目において、1科目1単位と設定、授業時間は15時間、その他30時間については、授業時間外での学習とする。「理学療法研究法演習Ⅰ」、「作業療法研究法演習Ⅰ」は2単位と設定、授業時間30時間、その他60時間については、授業時間外での学習とする。

「基礎科目」、「職業専門科目」、「総合科目」については、各科目の到達目標から十分な学習時間の確保ができるように考慮し、1科目1単位(人体構造学実習、理学療法研究法演習Ⅰ、作業療法研究法演習Ⅰを除く)、「展開科目」は、全て1科目2単位と設定している。

「展開科目」は、理学療法士、作業療法士に関連する他分野の応用的な能力を育成する科目であるため、学修成果を高めるために、授業時間、授業外時間の多くの確保が必要と考え、2単位と設定としている。

学修成果を高めるための授業外時間の管理方法として、予習、復習の時間を確保する旨をシラバスに明記し、さらに授業時間外学習スケジュール表を管理していく。

以上